
あなたへ

七瀬 夏葵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたへ

【Nコード】

N37630

【作者名】

七瀬 夏葵

【あらすじ】

詩集です。

伝えたい想いを綴ります。

あなたへ

あなたが好きだと 伝えたいホントは
だけどねそれはね 出来ないって知ってる
伝えたい想いは いつも空回りばかり
どこまでいっても 私の片思い

あなたは 笑うのかな
それとも 呆れるかな
その答えが 怖くて 何も言えない……

大好きだよって 伝えたいホントはね
君が 好きなんだよってね
だけどね やっぱり 伝えられないよ
ホントの気持ちは いつも空回り ばかり……

好きだよって気持ち 伝えたいよすぐに
だけどね やっぱり 言えないよ
好きだよって言ったら
あなたは笑うかな
それとも やっぱり 困るかな

だめだよ やっぱり 言えないよ
伝えたい想いは 空回りばかり
好きだよって言えたら
どんなにいいだろう
好きだよって言えたら
笑ってくれるの？
ねえ 答えて お願い……

明日

どんなに辛くても
明日はやってくるよ
止まない雨はないし
明けない夜もない

大丈夫 心配ないさ
明日はきつと 笑えるよ
君が頑張ったってこと
誰より君が 知ってるはずだろ？

どんなに辛くたって
悲しくなったりしてさ
明日はちゃんとやってくる
夜と朝は繰り返し来るんだ

辛くっても 悲しくっても
自分を作る大切な欠片^{かけら}
何が欠けても 君じゃなかった
今ここにいる 君が君だよ

大丈夫 心配ないさ
明日はきつと 笑えるはずさ
誰よりもね 君が君で
ここにいてる事が大事だよ
大丈夫 心配ないさ
君はここにいてもいいんだよ
大丈夫 心配ないさ

明日はきつと 笑えるさ

過去なんか踏み台にしちやえ
今が辛くても明日があるんだよ
大丈夫 心配ないさ

明日はきつと 笑えるさ

明日はきつと 笑えるさ

無限ループ

好きだと 伝えられたらよかったのに
だけどね 意地っ張りなあたしはいつも言えない
大好きなの 代わりに
口について出るのは
いつもの 変わらない軽口ばかりで
わからない こんなに好きなのにねあたしは

今日もね 君には言えずに終わるよ

好きだと 伝えられたらよかったのに
だけどね いつもそれが出来ずに終わる
君のね 顔を見てるといつもなぜか
きまって 悪口しか出てこない

嘘だよ 嫌いなんてあるわけないんだから
だからね 信じたりしないでほしいの
ほんとは 泣きたいくらい好きなんだからね
伝えたい 伝えられない想いは今日もね
あたしの 胸の奥チクリ刺すだけ

もうすぐ春になるよ

君といられるのは あと少し
なのにな やっぱいつもと同じなの
憎まれ口しか言えない………

強がり ばかり可愛くないあたしを
君はね きつと嫌いになってるよね

だけどね　ほんとはずつと言いたかった
君がね　こんなに好きなんだってこと
言いたい　言えない　言いたい　言えない
気持ちの　無限ループ

好きだよ　伝えたい　伝えられないままで
今日もね　あたしの胸がチクリ痛むよ
嘘だよ　嫌いなんかじゃないんだからと
言いたい　言えない　今日も無限ループ

会いたい

始まりはね 些細な事で
あなたの言葉が嬉しくて
ただそれだけで 何もなかった
どうして？いつからだろ
あたしの心 いっぱいにした

もしもね 出会わなければ
こんなに 苦しくはならなかった
おかしいよね それでもまだ
あなたといたいんだよ
あなたに 笑って欲しい
ただそれだけで 何もいらぬ

会いたい と言えたら
この苦しさは 消えるのでしょうか
もう二度と あなたの声が
あたしの名を 呼ばないとしても
それでもいい それでもいい
ただ今あなたに会いたい

どうして？あんなに苦しかったのに
最後の笑顔 忘れられない
あなたの声 めくもり
何もかも 全部
こんなに 覚えてるんだよ
どうして？もう会えないって
知ってるのにね あたし

会いたい 会いたいんだよ
もう二度と会えないと知ってても
会いたい 会えないんだよ
もうあなたはここにはいない
もうあなたはここにはいない

レインキス

降りだした雨がまた
戻れない場所へと誘う
どんなに時を重ねても
拭えない不安
一体いつまで
こうして時重ねてく？

降りだした雨音が
遠くに聞こえ始めてた
重ねた唇だけじゃ
渴き癒せないのに

降りだした雨がまた
戻れない場所へと誘う
ひと時でもいいと
強く抱きしめた

降りだした雨がまた
想いを引き戻していく
一体いつまで
こうして時重ねてく？

降りだした雨音が
遠くに聞こえ始めてた
重ねた唇じゃ
悲しみ消せないのに
叶いはしないと

知っているはずなのに

降りだした雨がまた
想いを引き戻してく

一体いつまで

こうして時重ねてく？

降りだした雨音が

遠くに聞こえ始めてた

もう戻れはしない

二人 秘密のレインキス

いちばんの願い

大丈夫 今日も

ちゃんと笑えてるよ

いつもと同じ

変わらない日常

本当はね

あなたのこと

思い出すだけで

抑えた気持ち

溢れそうなの

言葉にならない

想いばかり 増えてく

言葉に出来ない

想いを胸に

私は今日も 歩いていくよ

もしも 許されのるなら

せめて 伝えたいよ

大好きだから

幸せになつて欲しい

ただ それだけ

あなたに 笑つて欲しい

あなたに 幸せでいて欲しい

それがね 私の

いちばんの願い

言葉にならない
想いが 溢れてく
涙に なつてく
だけど・・・・・・

振り向いて

もらえなくたって

私は 願うよ

あなたが 幸せであること
それがね 私の
いちばんの願い

元気でいてよ

笑っていてよ

あなたが 笑ってることが
あなたが 幸せであることが
何より 大切な願い

元気でいてよね

笑っていてよね

あなたが 幸せだったこと

何より 大切

幸せに なってよね

それだけを願う

たったひとつだけ

願いが叶うのなら

あなたを想うよ

あなたが笑って
幸せであれるように
願いつけてる

もしも隣にいるのがね
私じゃないんだとしても
かまわないんだ・・・

この想いが叶わないんだって
知っているけど
それでもせめて願うよ
大好きな あの人
幸せで ありますように

幸せになつてね
それが私の
いちばんの 願い

ハッピー焼きそばPANDAY

君が好きだと言ったから

今日はハッピー焼きそばPANDAY

君が生まれたこの日

誰より大切に思うよ

ハッピー焼きそばPANDAY

君が好きだと言ったから

両手いっぱい焼きそばパンを送ろう

ハッピー焼きそばPANDAY

君に会えて良かった

この幸せに

心から感謝しよう

ハッピー焼きそばPANDAY

大好きだよの代わりに

焼きそばパンを送ろう

ハッピー焼きそばPANDAY

ハッピー焼きそばPANDAY

君が生まれた日

大好きな君に

ハッピー焼きそばPANDAY!

雨だれ

降りだした雨がまた
遠い思い出へ誘う
あの日と同じように
滲んでく景色 切なくて

今もまだ 覚えてる
あの人のあの匂い
笑顔も泣き顔も全部
こんなに 覚えてるのに……

泣きたくなる夜
ふいに思い出すのは
いつも あなたの顔
もう会えないって知ってる
どうしてなの こんなに愛しい

雨だれひとつで
私を引き戻してく
あなたへの想いが
溢れて止まらないの

雨だれひとつで
私を引き戻すよ
あの日のあの温もり
唇なぞって そっと思い出すの
震える指が悲しいね

あれからどれくらい
時が過ぎたのだろう
今でも鮮やか過ぎる
君のあの思い出

雨だれ一つで

私を引き戻すよ

あの日の君の泣き顔

ずっと 忘れさせてくれない

雨だれ

私を濡らすよ

君へ

無性に不安で

焦ってばかりの日々

紫煙を燻らすその先に

見えているのは何？

君が歩いた道は全部

君だけの道標しるべ

何もかも全部

投げ出したくなっても

それすらも全部

君を築く大切な欠片かけら

そうさ時には情けなくていい

誰より自分が

許せないんだろ？

そうさ今はただ

それだけでいいさ

昨日より今日

今日より明日

また笑えばいい

ただそれだけだよ

たまには思いつきり

休んだっていいんじゃない？

誰より自分が

頑張ったって知ってるはずだろ？

そうさ今はただ

それだけでいいさ

昨日より今日

今日より明日

また歩けばいい

ただそれだけだよ

他の誰でもない

自分の敵は自分

今日より明日

明日より明後日

また戦えばいい

誰でもない

歩きだすのは

いつだって自分

そうだろう？

たまには誰かに

甘えてもいいんじゃない？

優しい存在はきつと

案外近くにあるはず

一人だけじゃ生きていけないんだと

うんざりするくらい知ってるはずだろう？

怖がる事はないさ

君は君だって事を知ってる

そんな存在があるなら

飛び込め！

悪い事ばかりじゃないさ

昨日より今日

今日より明日

明日より明後日

生きてる意味を知る日はいつかね
きつと来るから

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3763o/>

あなたへ

2010年10月18日03時19分発行